

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム モン・サン井手園
(ユニット名)	モン・サン井手園 Ⅲ(4階)
所在地 (県・市町村名)	長崎県西彼杵郡時津町元村郷897
記入者名 (管理者)	引地 涼子
記入日	平成 20 年 2 月 15 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>グループホーム モン・サン井手園が掲げている運営理念、「やさしく・楽しく・元気よく」を我々のモットーとし、何事においても運営理念を心掛けています。</p> <p>○</p>	<p>グループホームの意義・役割を常に考え、日常のケア業務の中で活かすよう心掛けております。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎日の業務の中でも取り組んでおり、いつも「やさしく」、いつも「楽しく」、いつも「元気よく」をモットーに、居心地の良いホーム作りに努めています。</p> <p>○</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>入居者の方々や御家族、その他関わりがあるの方々に対して理解して頂けるよう、運営理念に基いたホーム姿勢に取り組んでいます。</p> <p>○</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>ホームの恒例行事として、毎年夏祭りを催して周辺住民の方たちにも参加をして頂き、回を重ねる度に集まれる方々も増えられ、徐々にではありますが理解を得られています。</p> <p>○</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>オープン時、自治会よりグループホームの説明をお願いされた時に現地説明会を設けた他、毎年の町内一斉清掃や団地の夏祭りへの加勢など、地域の方々との交流に努めています。</p> <p>○</p>	<p>モン・サン井手園で開催している「グループホーム合同の夏祭り」においても、多数参加して頂いて、地域の方との理解を得ております。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>6</p> <p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>入居を考えておられる本人様や、御家族のホームの見学の対応や、電話でのホームに関するお問い合わせに対して、職員も柔軟に対応が出来るように努めております。</p>	○	<p>最近では、「認知症高齢者を抱える家族の会」の皆様へ、ホームの見学と説明会を行い、モン・サン井手園が地域にどのような役割を果たしているのかを説明させて頂きました。</p>
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
<p>7</p> <p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>スタッフ一同、評価により日頃の業務でのケアのあり方をもう一度考え、新たに見直す事ができる機会だと思い、ケアの質の向上を目指しています。</p>	○	
<p>8</p> <p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>現在、ホームでは運営推進会議を一度も行っておらず、早急に内容の立案・検討を行い、運営推進会議の発足までにつながる様に努めます。</p>	○	<p>運営推進会議を行う上で、評価への取り組み状況等についての話し合いを行い、そこで出た意見をサービス向上につなげていきたいと思ひます。</p>
<p>9</p> <p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>昨年の夏はグループホームのお祭りを催す際、時津町役場の福祉部の職員の方より、お祭りの開会時に挨拶をして頂きました。地域にアピールできるホームとサービスの向上を目指して、更に取り組んでゆきたいと思ひます。</p>	○	
<p>10</p> <p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者や職員は研修会や講演会などに参加し、そこで学習し、入居者の個々の必要性を話し合い、ケアへの活用、支援をしています。</p>	○	<p>合同で研修会等を実施し、日常の中でのケアに関する話し合いや勉強会を行っています。これらが活かせるようなケアの実践に努めています。</p>
<p>11</p> <p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者の虐待については、ケアに携わる全ての職員が正しく認識しており、虐待に関する研修会などにも参加して、高齢者虐待への防止へ努めています。</p>	○	<p>スタッフは虐待があつてはならない事だと、日頃より承知しており、ホーム内でも話し合いや勉強会を行っています。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約にあたっては、利用者や御家族へ契約書を用いて十分に説明を行い、その際に分からない事や疑問に答え、利用者や御家族の理解と納得を得られた上で、その旨の同意書を取らせて頂いております。	○	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方々からのご意見があれば、その場で直接お話しを伺い、改善・解決出来る意見の内容であれば直ちに対応を行います。入居者の方々本位のサービス向上提供に努めております。	○	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	御家族へは面会に来られた時に、最近のホームでの暮らしぶり・健康状態等の報告を行っています。また、定期的な病院受診で入院が必要になられた時等も、事前に電話で報告を行って了解を得ています。	○	入居者の金銭管理については、自身で管理が難しい方には御家族より必要な金額を事務所で預かり、出納帳を用いて本人様が使われたい時に必要な金額が使われております。また、御家族の面会時にその出納を明らかにして、了解を得ています。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族からの貴重なご意見・要望があれば、その場で改善・解決が出来る内容であれば柔軟に対応を行い、その意見の反映に繋げております。また、その場で解決できない問題であれば運営者である施設長へ相談し、改善に向けて取り組んでいます。	○	ホームの2階・事務所前に「意見箱」を設けており、御家族等の意見・不満・苦情を寄せて頂けるようにしております。寄せられたご意見に対しては、迅速に対応と協議を行い改善策を立案し、解決に向けた答えを出せるように努力しております。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	些細な事からでも大切な意見であり、職員の声に対しては常に聞き、運営が改善出来るように取り組んでおります。その問題に対して完全な答えを導き出すのは難しい場面もありますが、何事にも解決に向けて取り組んでおります。	○	職員に意見や提案があれば、その都度話し合いを持ち、施設長や管理者と意見交換ができるように、話し合いの場を設けております。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の方で、例えば突発的な病院受診が必要な場合でも、その方の身体状態を把握している職員が付き添った上で、受診対応をしています。常に何らかの職員が必要な場合には、人員の確保と配置が出来るように努めております。	○	職員の都合も組み入れ、必要に応じて勤務ができる体制を考慮しています。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者である施設長は、職員の異動等を行う際は、ホームのケアマネージャーや看護師らの助言等を含め、入居者の方々の心配を考慮・検討した上で、入居者へのダメージを必要最小限に抑える努力を行っています。	○	ユニット移動がある場合、手慣れた職員を必ず確保した上で、必要最低限で行っています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全てのスタッフとはいかないが、県やグループホーム協議会主催の研修に参加しています。	○ 研修に参加出来なかった職員へは、後日資料をもとに話を行い、周知に努めております。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアが慢性的なものにならないように、入居者へ影響が及ばないよう、系列のグループホーム同志の相互研修を行っています。	○ モン・サン井手園はグループホーム協議会へ加入し、その研修会等における他ホームとのグループワーク参加等において、お互い違う職場同志のスタッフらで、ケアに対する意見の交換を行ったりして、サービスの質の向上に取り組んでおります。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者がスタッフの状態にも注意を払い、積極的に悩みを聞くようにしています。時には施設長が相談に乗ってくれます。	○
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の知りたい情報を常に念頭に置き、必要に応じて資料の配布や、研修を行っている。	○
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に、ホームのケアマネージャーを介して本人様とご家族の面談を行い、困っている事はないか？不安な事はないか？等のヒヤリングを行い、本人様の希求されている事を十分に把握出来るように努めています。	○ また、ホームのケアマネージャーより本人様に対して、ホームはどんな所か？生活を始める上での分かり易い説明をさせて頂き、本人様の不安を解消出来るような案内役を努めさせていただきます。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期段階においてはケアマネージャーが、入居されてからはその階のリーダー(その階の計画作成担当者)が、本人様に対する御家族からの要望や、抱えておられる問題を伺い、御家族との信頼関係に繋がってゆくよう努力しています。	○ ホームのケアマネージャーと、そのユニットのリーダー(その階の計画作成担当者)が中心となり、本人様のホームでの生活ぶりや、こちらからの相談(本人様の生活に必要な物品の依頼や、本人様が普段訴えられている事 例:お金心配・家族はどうしているか等)などを御家族へ相談しています。(面会時・電話などを利用)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様と御家族からの相談があれば、話し合いを行い必要としている支援を見極め、その方に合った支援方法ができるように努めています。	○	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人様の生活リズムが安定するまでは、傾聴と見守りを行い、徐々に慣れた頃に出来るだけ他の入居者の方々や、職員と接する時間を増やすように工夫をしています。	○	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の方の日常的な会話の中で、お互いに分かる事、分らない事など確認し合い、助け合っている体制を常に心がけています。	○	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	少しでも入居者の方に問題が発生すれば、必ず家族の方にお話しをして、本人様にとって最良の方法をホームのケアマネージャーを含めて話し合えるように努めています。	○	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者の方の希望や思いを面会時に御家族に伝え、また、御家族の方が、日々どう思っているかを入居者の方に伝え、中立的立場を守りつつ支援を行っています。	○	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の希望があれば、御家族に相談し、馴染みの方などと交流が図れるように連絡を取るなど協力し、可能な限り支援に努めています。	○	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	声掛けを行って、日常的にホールにてお茶やレクリエーションを行いながら、入居者同志の交流の場を設けております。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	気兼ねなく、気軽に訪問していただけるよう、職員も後々の関係が続いてゆけるように、努めております。	○	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望を志せるように、一人ひとりの個性を尊重し、スタッフ一人ひとりが声掛け・促しを行っています。	○	日常の中で、入居者の方々の意向を把握して検討しますが、それが困難な場合もあります。そんな場合には入居者の気持ちを優先して考えてゆくようにしています。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴、その方の人生経験や出来事を、本人様や御家族に聞いて、日常生活に反映させております。	○	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活空間にはホール・食堂・台所が同一場所にあり、居室も見渡せるので何か異常があれば、すぐに対応できる状態にあります。	○	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人様、御家族より色々な意見を聞き、ケアプラン等の介護計画に役立てていき、ホームのケアマネージャーや職員とも話し合い、最善の方法で介護計画に反映し、作成してゆくように努めております。	○	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間を決め、その都度見直しを行い、状態変化が見られた時も見直しを行っています。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の24時間のカルテがあり、少しの異変に対しても対処できるように記入がなされ、毎日の連絡を取り合う申し送りノートは、その日にあった出来事が記録されており、スタッフがいつでも情報を共有でき、ケアの現場で話しています。	○	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関(清水病院)との協力体制が整っており、本人様のホームでの体調面において、緊急性を要する入院・治療が必要な場合でも、24時間受け入れる態勢があります。	○	本人様の身体機能の回復・維持のリハビリテーションを期間を設けて、本人様・御家族の希望により、協力病院(清水病院)で受けて頂く事ができます。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティア学生の受け入れ、警察へのホーム周辺の防犯パトロールのお願い、消防からの消火訓練での指導、小学校からの小学生のホーム訪問の依頼等、周辺地域との関わり合いを大切にしながら、本人様のホーム生活の支援を行っています。	○	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人様や御家族の意向や必要性に応じて、他のサービスを利用する為の支援を行うにあたっては、当ホームのケアマネジャーを介し、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と協議・検討し、他のサービス利用の活用支援に努めています。	○	本人様や御家族の相談に応じた、他のサービスの為の情報提供や、サービス利用にあたっての説明等をさせていただきます。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人様・御家族の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターへ相談を行い、協働する事に努めております。	○	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療面では、個人々々の定期的な医療機関(眼科・皮膚科等)への病院受診での付き添いと送迎のサービス提供、また、個々の体調の変化を医師に相談出来る協力病院(清水病院)のバックアップ体制が整い、適切な医療が受けられるよう、本人様・御家族に対しても安心してホーム生活を送って頂けるように支援しております。	○	治療に時間を要する歯科の受診も、往診と治療がホームで受けられる体制が整っており、本人様・御家族の要望があれば受けて頂けるようにしております。治療・経過に関しては、御家族へその受診毎に報告をさせて頂いております。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院にて週一回の診察を受け、その時に担当医に相談したり、指示を仰ぎ、それ以外にも何か異変があれば、その都度診察や治療を受けられるように努めています。	○	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームの看護師が入居者の方の体調を直接本人から伺い、毎日の健康管理に気を配り、必要であれば病院への医師へ電話で症状・状態の相談を行い、必要であれば受診を受けて頂く支援に努めております。	○	毎日の健康状態の変化等を、ホームの看護師は熟知しており、ケアにあたる職員も入居者の身体状態の変化を見逃さず、何か異常が見られれば逐一、ホームの看護師へ相談・報告を行っています。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療職との情報交換を行い、その方の症状に応じて、早期治療・早期退院へ向けての話し合いや、相談・協力を努めております。	○	認知症の方が長期に亘る入院が、認知症の進行を進めてしまう事を協力病院(清水病院)は熟知しており、ホームへの早い復帰へ向けた早期治療・早期退院に努めております。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	協力病院の担当医が定期的に御家族に病状説明を行い、今後の治療の方針などを相談しておられ、スタッフを含め穏やかに過ごされるように支援を行っています。	○	
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	出来る限り、日々を大切に穏やかに暮らしてゆけるように、協力病院のサポートを受けながらスタッフも含め、可能な限り支援を行っています。	○	
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退去先に移った時に、その方の精神的ダメージが軽減されるように、移るタイミングを考慮し、本人様に関する日々の暮らしぶりを書面にて提供しています。(関係者間で話し合い、情報支援を行っています。)	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	○	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	○	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	○	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	○	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄時間が異なるため、その方に合わせてトイレ誘導を行っています。また、トイレへの誘導後は離れた所から声掛けをして、可能な限り一人で排泄して頂いております。(ニオイや音に対する配慮を心掛けております。)	○	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	おおよそ週3回入浴日を決めてはおりますが、出来る限り本人様の希望を聞きながら、入浴をして頂けるようスタッフ一同心掛けております。	○	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼間は出来る限り他の入居者やスタッフと会話をしたり、レクリエーションへの参加等呼び掛けたり、毎日の生活リズムを作るようにして、出来るだけ安眠につながるよう努めております。	○	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で、お手伝いで洗濯物をたたみ、食器の後片付け、料理の味見などへ手を貸して頂き、入居者一人ひとりが楽しみや出番を見つけ出し、生活に活気が出るように支援しています。	○	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の方の意向を考慮しながら、家族の方とスタッフで相談を行い、本人様に管理して頂くか、御家族の方に管理して頂くかを決めて頂き、希望があれば、スタッフ付き添いでお買い物へ出かけております。	○	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人様の希望があれば、御家族に相談しながら、体調や気候などに配慮し、実現できるように支援しています。	○	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間を通してピクニックへ行ったり、催し物に行ったり、入居者の方の外出への支援をしております。また、御家族にも声をかけて一緒に参加して頂くようにしています。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム2階にある事務所内の電話が使用できるので、スタッフが同行し、電話が繋がるまでの相手先のダイヤル確認を支援しています。手紙の場合は代筆や郵便ポストへの投函など、利用の支援を行っています。	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	御家族はもとより、友人・知人の方などと交流を図れるように、連絡などを取る協力を行い、いつでも気軽に立ち寄れるようにスタッフ一同心掛けております。	○	
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症にとって身体拘束が決していい事ではないことを、ケアにあたるスタッフは認識しており、身体拘束は行っていません。	○	身体拘束に関する研修や講演会に参加し、拘束を行わないケアの在り方を学習し、全職員へ周知するように取り組んでいます。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入口に鍵を掛けていないので、入居者の方が何も告げられず外へ出ようとされる時があるが、出入りにチャイムが設置してあり、扉の開閉に応じて出入りが分かるようにしています。スタッフは常に注意を怠らないように、入居者の方々の声掛け・見守りを行っています。	○	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホール・食堂・台所が同一場所にあり、居室も見渡せるので、何か異常があれば、すぐに対応できるように努めております。	○	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫箱の中身や、ハサミなど必ずチェックを行い、手元に置けない方にはスタッフで預からせて頂き、危険が及ばないように出来るだけホールで使用するように働きかけています。	○	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	バックアップ機関である協力病院があり、指示を仰いで適切な対応を取ったり、スタッフも日頃より注意を払っており、何か事が起これば迅速に対応出来るように常に学習しております。	○	再発防止の取り組みに向けた話し合いを、定期的に行っています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	協力病院からの指示や、緊急時の対応方法にはマニュアルがあり、支援を受けられるようにしています。	○	職員間での応急手当の訓練を、繰り返し行っていきなりたいと思います。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防署の方に来て頂き、消防避難訓練ほ行い、誘導や搬送方法などを学び、毎回管理者指導による消火器の取扱い方や、避難方法の教育を行っております。	○	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	日頃より体調の変化や、転倒の恐れ等を面会時に報告し、協力病院の医師とも相談しながら一人ひとりに合った対応策を練り、御家族に説明と相談をしながら行っております。	○	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを朝食後に行い、バイタルノートや個人記録にも記録を残して、少々の変化もわかる状態にあり、早期に対応出来るようにしています。	○	ケアに携わる者すべてが情報を共有し、対応出来るように努める。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが薬を管理し、間違いがないように必ず服用して頂いております。服用する際に入居者の方の名前を確認しています。薬の説明を参考にしながら、症状の変化があると医師に相談しています。	○	服用忘れがないように常に気をつけて、使用している薬の目的・副作用・用法・用量を理解し、医師の指示通り確認し、服薬の支援をしています。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の解消につながる様、献立に繊維質の多いものを取り入れたり、こまめな水分補給、決まった時間の排泄誘導、夕方のラジオ体操への働きかけや、軽い運動を行っております。	○	年齢とともに、食事摂取量と運動量の減少が見られるので、食べ物の工夫、適度な運動を心掛けて努めていくようにしています。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、お口の清潔を勧めています。自分でできない方には入れ歯・口腔内のチェックを、その都度介助にて行っております。	○	口腔内の清潔、常に気を配り日常的に支援してゆくように努めております。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホームのスタッフでは不十分なので、系列内の栄養士に参加してもらい、一日の食事摂取量記録を行っています。水分補給も毎食事や、おやつの際にお茶を提供し、夜間も夜勤者にて夜間巡回時に行っています。	○	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	年に一回、インフルエンザの予防接種を行っています。また、協力病院に指示を基に、清潔・手洗い・消毒など、感染症の予防に努めています。	○	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	高齢者の方中心で、免疫力が弱いと思われるので、常に衛生面では清潔を保ち、食中毒などに気をつけるため、調理毎に除菌・消毒を行っています。	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	認知症というイメージを感じさせないような、明るい洋風の建物であり、玄関回りにはプランターや創作品などを飾り、家庭的な雰囲気作りに努めています。	○	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方にとって不快にならないように、声のトーンや照明の明るさなどに気を配り、季節に応じて装飾を変えられるように、スタッフ一同心掛けております。	○	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれご自分のリズムで暮らせるように居場所があり、他の入居者の方の居室へ遊びに行けるよう配慮されています。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様がどうしても思い入れのあるものや、家具などは本人様や御家族の意思を尊重し、気軽に持ち込めるようにしています。	○	入居者の方が御家族と相談されて、その結果、職員にも相談され、居心地良く過ごせるように取り組んでいます。入居者の方にとって不快音や光(カーテンなど)がないように支援しています。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	スタッフが日頃より注意しており、温度調節は入居者の状態・様子を見ながら行っています。	○	換気扇は各居室、ホールその他に設置されています。温度調節は入居者の方の状況に応じて行い、外気温との大差がないように配慮しています。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に合わせ、ギャジベッドを使用したり、車椅子でも楽に移動できるスペースもあり、トイレも各居室に設置しており、生活しやすいように配慮しています。	○	各居室内にはトイレを設置し、歩行不安定な方も心配なく自立が出来る。ホール・食堂なども近くにあり、移動などもスムーズに行えるようにしています。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室・トイレなどに名前を付けて本人様で場所を把握できるよう支援し、誤認や錯覚を起こしやすい可能性があるものを放置せずに、早急に取り除くように努めています。	○	入居者個々の力を活かすことを日々努力し、自立の支援をしています。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物そばにある広い駐車場を散歩したり、草花見物、夏場の水撒き、夏祭りの催し物などに活かしています。	○	

V. サービスの成果に関する項目	
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度
		<input checked="" type="checkbox"/>	③たまに
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

医療面においては、我々介護職員も安心して対応が出来、入居者の方々にとって住みよいホーム作りを心掛けております。